

令和2年度東大阪大学柏原高等学校 学校評価報告書

1 めざす学校像

学園訓の具現化を図り、知力の充実と豊かな心を育む人間教育を推進し、社会に有為な人材を育成する。また、時代の要請を常に把握し、全学園教職員の力を結集して、地域社会から必要とされる総合学園をめざす。建学の精神を堅持しつつ、進学を目指す生徒、就職を希望する生徒等、多様な生徒に対応する教育を推進し、生徒が学業やスポーツに励み、生き生きと活動する魅力ある学校をめざす。また、卒業生が誇りに思える学校、中学生が多数志望する学校、保護者が通わせたいと思う学校、地域に親しまれ愛される学校づくりに取り組む。

- ① 伸びしろのある生徒を多数受け入れて学力の向上を図り、進学・就職の実績をアピールできる学校
- ② 自己表現力、コミュニケーション力等の苦手な生徒が、安定した学習環境と充実した教育相談体制の中で生き生きと生活できる学校
- ③ 凡事徹底を推進し、生徒の生活規律を確立させて多様な進路実現を可能とする学校
- ④ スポーツに秀でた生徒を鍛え上げ、全国大会出場等の優れた競技実績を上げる学校
- ⑤ 学校活性化の志を強く持ち、生徒を愛し、生徒と向き合い、家庭とも連携してとことん面倒を見ていく教職員集団が形成されている学校

2 中期的目標

1 学力向上とキャリア教育の深化・充実

- (1) 教科会議の定例化と指導方法の研究推進
- (2) わかる授業をめざした公開授業、さらには授業研究会の確立
- (3) 総合的な探究の時間を活用した「進路研究」でのキャリア教育の推進
- (4) 生徒の学力実態と興味関心を踏まえた多様な進路実現が可能なカリキュラムの研究
- (5) 放課後学習や補習学習等の実践

2 自己肯定感の育成と凡事徹底の推進

- (1) 生徒が集中して学べる学習環境の整備
- (2) 生徒の主体的な活動を育成するための生徒会活動の活性化
- (3) 学級経営を充実させ、学級集団の育成を図る
- (4) 挨拶、身だしなみ、頭髪、時間の厳守等の「凡事徹底」
- (5) 問題事象への迅速な対応と外部機関等との連携の強化
- (6) 生徒の実態のきめ細かな把握と転退学者「0」に
- (7) 相談機能の充実

3 学校の活性化と指導力等教員の資質の向上

- (1) 課題に応じた校内研修会の充実
- (2) 地域との連携の強化
- (3) 外部人材の活用
- (4) 強化部の一層の飛躍と強化部以外の部活動の活性化

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見
<p>○学校教育自己診断調査結果（生徒）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体を通じて、肯定的評価の割合が高くなっている。特に「あなたの学級では授業を集中して受けていると思いますか。」(67.2%→82.4%)、「相談や悩み事について話しやすいように配慮されていますか。」(76.5%→90.1%)、「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会があると思いますか。」(64.6%→82.7%)、など7の質問で10ポイント以上の肯定的評価の上昇があった。これは、緊急事態宣言による学校閉鎖やコロナ禍における活動の制限により、生徒の学校に対する意識の変化によるものではないか。特にコロナ禍において、家以外での居場所として、学校がより必要とされているのではないだろうか。生徒が安心して通える学校づくりを継続して取り組んでいきたい。 ・一方で、「選択科目について、あなたが思っていたような選択科目だと思えますか。」(89.0%→79.6%)と肯定的評価が下降している。選択科目において講座の内容の選定など、生徒が求める内容に精査していくことが求められている。 <p>○学校教育自己診断調査結果（保護者）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校の雰囲気良く、ご子息が生き生きしていると思えますか。」(74.9%→88.3%)、「ご子息は、授業が楽しく分かりやすいと言っていますか。」(58.1%→76.1%)、「教員は、生徒の学力向上を図るため、指導方法の工夫をされていると思えますか。」(55.6%→71.3%)、「本校では、いじめや差別・偏見をなくすための環境づくりがなされていると思えますか。」(45.2%→82.4%)など10の質問で10ポイント以上の肯定的評価の上昇があった。生徒の分析結果と同様に、保護者もコロナ禍における学校の必要性を感じ、学校生活に高い評価をしている。 ・今年度はコロナ禍の影響で学校行事の中止や保護者の参加中止、冬の懇談会の中止などを行ったため、「分からない」の回答が増加した。柏高メールやホームページ・SNSなどで、コロナ禍においても学校の様子や情報が保護者に分かるよう開かれた学校づくりを進めていかなければならない。 <p>○学校教育自己診断調査結果（教員）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「スクールカウンセラーによる相談は、効果的に行われていると思えますか。」(57.5%→80.8%)、「日々の教育活動における課題や悩みについて、気軽に相談し合える職場の人間関係ができていますか。」(75.0%→88.5%)などの質問で肯定的評価の上昇があった。コロナ禍での学校閉鎖により、生徒だけでなく先生方の悩みも増加したのではないだろうか。本校の相談室及び専門のカウンセラーの訪問などが上手く機能している。 ・一方で、「大学・企業・教育機関との連携や協力を図っていると思えますか。」(84.6%→68.0%)、「後援会と学校との協力体制がとれていると思えますか。」(74.4%→48.0%)、と肯定的評価が下降している。コロナ禍において従来の方法での連携や学校行事に参加してもらう等が難しい中、オンラインなど新しい方法での各機関や保護者との連携を模索していきたい。 	<p>評価委員：学識経験者(市内在住) 同窓会代表 保護者代表(後援会会長)</p> <p>○学校教育自己診断調査結果（生徒）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概ね元年度よりも2年度の肯定割合が高くなっており、先生方皆さま方のご努力の賜物と思います。一部70%台やそこを切っている項目もいくつかあるようですのでご精査頂き、改善に向けて更なるご努力を期待する次第です。授業の質や自分の評価、風紀などポイントが高くなっていて喜ばしい事と思います。 ・「学習への取り組み」学習評価には関心が高く、9割近くが前向きに評価している。 ・「進路指導」指導には肯定的で、否定的な面が大幅に減少傾向。 ・「相談室・保健室の利用」保健室は気軽に利用しているようだ。 ・「生活指導・規律」何時も乍ら、学校の伝統教育として、生徒はもとより、教職員・保護者の認識と信頼は厚い。生徒の自己診断の数字は、正直なデータであると受け止められる。 ・「選択科目」選択科目については、小・中学校時代から様々な経験をしているが、自分の将来にとっての必要な学習設定やその選択肢を選び抜く感覚が未だ十分ではないと思われる。アンケートの数字の上からも、②の「どちらかといえばそう思う」の回答が目立つ。 <p>○学校教育自己診断調査結果（保護者）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き多感な時期の生徒と保護者とのコミュニケーションが良好なものになりますように更なる生活指導と開かれた学校づくりを期待します。 ・肯定率が90%以上で高い評価を得ているもの（充実の学校生活。施設・教育環境。規則遵守。風紀・生活指導。） ・肯定率が50%台であり評価を得ていないもの（懇談会や進路講演会。進路指導。教員の面倒見。学校行事・生徒会活動。） <p>○学校教育自己診断調査結果（教員）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご自身で取組む生徒や授業に対しての肯定は高いので安心ですが、特色やクラス編成などの不安がちらほらあるように感じます。職員の意見、待遇改善が生徒や保護者への安心と満足に繋がっているように思います。引き続き職員の方々への適切な評価、志しのある方へはそれなりの評価をし、職員の方々がどうか生徒へ存分に対応出来ること、そして魅力ある学校づくりをお計らい頂ければ幸いです。 ・生徒達の学習について、各先生方の高い自己評価には敬意を払いたいと思います。日々本当にご苦勞の連続だと推察します。最後の自由欄に貴重な重みのある意見が書かれておりました。「共通理解」という言葉があります。教科で、分掌で、学年で、必要あれば委員会を作り、許されれば平凡だが、組織的に「グループ」を作っても良いのでは。私学で転勤のない仲間同士ですから、色々な観点から、言いたいことを全てを出し尽くして、その場で激論を戦わせれば、自己の責任の重さも知り、相互に理解し協力し合える社会は必ず可能です。各々が、わが身の「我」にこだわらないように…。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上とキャリア教育の深化・充実	(1) 授業の質的向上			
	ア) 授業の質的向上のための研究推進体制の確立	ア) 教科会議を定例化し、指導方法や指導内容の交流や情報交換等を行い授業の質を高めるよう実践する。	ア) 自己診断における教科指導や授業に係る項目	ア) 教科会議の定例化で、教科内での打合せがしやすくなり効果を上げている。進度の調整だけでなく、指導方法や内容等の研修をしている。
	イ) 教員間で研鑽し合う体制づくり	イ) 今年度より導入されたレンタルタブレットを使用し、授業での使用及び質の向上の体制を整えた。また、G Suite の導入などコロナ禍における自宅学習の準備を進め、実際に運用を行った。	イ) 自己診断における情報機器の活用に関する項目	イ) 授業におけるタブレットの使用及び自宅でのタブレット学習の整備、映像授業の作成&配信について、教員の準備を進めることができた。
	ウ) 学び直しの時間充実	ウ) 放課後学習の場(真-Navi Room)や考査前勉強会の設定を行う。	ウ) 自己診断における放課後学習の場の活用項目	ウ) 全学年通じて、「真-Navi Room」が利用されていた。特に考査前勉強会において、利用が増加していた。
	(2) 多様な進路選択への対応			
	ア) 進路未定者「0」を目指す	ア) 進路指導部と学年との十分な連携・情報交換を強化する中で、一人一人の生徒の状況を把握し、共通理解を図り、計画的系統的な進路指導を行う。	ア) 令和2年度進路状況の実績	ア) 大学(短大含む)進学 136名 専門学校進学 44名 就職(縁故・自営含む) 38名 公務員(自衛官) 1名 (令和3年4月末日現在)
イ) 就職内定率100%の継続を目指す。	イ) 企業や事業所とのつながりを維持しつつ、生徒の興味関心も把握し、コーディネーターを活用し、内定に至るまで指導を徹底する。	イ) 令和2年度就職内定状況実績	イ) 学校紹介の就職希望者は27名(25企業) 内定率100.0% (令和3年4月末日現在)	
ウ) 進路を見据えた選択科目の充実と研究	ウ) 選択科目開設7年目。選択科目の一部コース化後の選択科目について多様な授業の実施を行う。	ウ) 自己診断の評価結果	ウ) 生徒のニーズに合わせた選択科目の実施を行い、生徒に興味・関心がある授業展開を形成した。また、来年度に向けて、新しい選択科目の選定を行った。	
2 自己肯定感の育成と凡事徹底の推進	(1) 自己肯定感の育成			
	ア) 生徒が活躍できる場の提供	ア) 生徒会活動の活性化。 生徒会が主体になった柏高祭(文化祭)の開催。 学校説明会・夏休み体験教室・村上学園フェスタでの生徒会はじめ有志の生徒の協力。	ア) 自己診断の評価結果	ア) 今年度はコロナ禍により、生徒の発表の場が多数失われてしまった。しかし、学校説明会や選択科目発表会において、動画による発表など形を変えての発表が行われた。引き続き、生徒の発表の場を作っていきたい。
	イ) キャリアアシストコースの充実	イ) 生徒サポート部の充実を図り、支援を必要とする生徒の状況把握と共通理解に努める。カウンセラー等、教育相談室との連携強化を図る。	イ) アシストコースの自己診断項目の評価結果	イ) 自己診断の結果から、約7割6分の生徒が学校に来るのが楽しいと回答している。中学校時に不登校であった生徒も在籍しているが、クラスの様子や自己診断から学校での生き生きとした姿が見えてくる。
	ウ) 退学者の「防止」と「減少」	ウ) 気になる生徒の状況把握及び家庭との連携強化を図り、不登校や中途退学の防止・減少方策を実施。	ウ) 退学者数の推移	ウ) 昨年度と同様の人数。様々な理由で転退学生が出ているが、引き続き退学者の減少をめざす。
	(2) 凡事徹底の推進と学習環境の整備			
	ア) 挨拶、身だしなみ、時間厳守等の凡事徹底	ア) 登校時の立哨指導及び通学路指導の徹底 遅刻指導、制服の指導の徹底	ア) 外来者の評価 自己診断の該当項目の評価結果	ア) 自己診断の該当項目では8割~9割の生徒が肯定的と評価している。来校者からは、「よく挨拶をしますね」と褒めていただくこともしばしば。スポーツコース生を中心に、他の生徒にも定着しつつある。
イ) 問題行動への迅速な対応と時代に即した生活指導	イ) 生徒への対応では、受容と傾聴という姿勢を心掛ける。また、学年会議や補導会議で家庭環境も含めた生徒の状況把握をし、生徒理解に努める。	イ) 自己診断の評価結果	イ) 生徒指導室、相談室等を利用して、生徒への指導の徹底を行った。様々な家庭環境の生徒が在籍しているので、引き続き生徒に寄り添った指導を心掛けたい。	
3 学校の活性化と指導力等教員の資質の向上	(1) 校内研修の充実			
	ア) 学校の課題に則した校内研修の実施	ア) 校内研修において、学校の課題に則した内容の研修を計画的に実施	ア) 実施回数、研修内容	ア) 学校の課題(SNS問題、ICT、異文化理解、いじめ、G Suiteなど)をテーマに実施し、教員の資質の向上及び学校の課題克服につながっている。特にコロナ禍において、GIGAスクール構想が急ピッチで進められる中、本校においても複数の研修を行い、対応できるように準備を進めていきたい。
	(2) 外部人材の活用と地域連携			
	ア) 専門学校や大学、企業等との連携と活用	ア) 進学ガイダンスや大学・専門学校・企業見学会等の実施	ア) キャリア教育にかかる自己診断結果と実施内容	ア) キャリア教育の一環として実施。今年度はコロナ禍の為、規模を縮小して実施。該当項目では、9割の生徒が役立っていると評価している。
	イ) 教育活動への外部人材の活用	イ) 部活動以外の教育活動への人材活用や選択科目の授業等への専門家の配置	イ) 人材活用状況	イ) 選択科目の授業において、今年度も7系列が専門の講師を招き、授業を展開した。また、調理・美術・スポーツコースにおいて、専門性の高い授業を講師の先生に指導していただいた。
	(3) 強化部の一層の飛躍と強化部以外の部活動の活性化			
ア) 強化部の戦績の向上	ア) 大阪・近畿・全国大会で秀でた戦績を残すために、合同練習や合宿の実施及びより良い練習環境の整備を行う。	ア) 各強化部の戦績	ア) 5つの強化部が全国大会及び近畿大会に出場した。今年度は、コロナ禍で学校が休校となり、大会が開催されない、又は練習ができない環境の中、素晴らしい戦績を残した。	
イ) 強化部以外の部活動数の増加及び活動の活性化	イ) 同好会や部活動の活性化に向けて、同好会や部活動の活動の促進及び、新入生への部活動紹介による周知を進める。	イ) 部活動における自己診断結果	イ) 今年度はコロナ禍で、部活動の実施ができない状況が続いた。しかし、限られた時間の中でそれぞれの部活動が実施し、高い肯定的評価を得られた。	